

編集者のことば

総合都市研究は年間3冊発行されています。都市研究センターの研究紀要として研究員の執筆した論文、都市研究センターが企画した研究会・シンポジウムの記録などのみを掲載する方針で、年間3冊を発行するのはなかなか大変です。編集事務的にもこの発行の事業は容易ではなく、昨年度までの例では、発行が遅れて、事実上年度末に集中することが常でした。

編集委員会では1991年度からこのような状況を少しでも改善して、内容の改善、発行の定期化を図りたいと考えました。都市研究センターは、現在、二つのプロジェクト研究を進めていますので、それぞれの研究プロジェクトが1号の特集号を担当するとすれば、残る1号を研究員の応募論文を中心に編集することが当然のこととして考えられます。奨励研究としてささやかな研究助成をしているグループからの報告も期待すればこれは充分可能なはずであるというのが編集委員会の見方です。年度始めのこの号がそれに当てられ、9月発行厳守のため、原稿締切を5月末とし、遅れた原稿は次回にしようという方針をたてました。

編集者の心配は、このような条件で、1号を編集するに充分な原稿の応募があるかという点でしたが、幸い3月末の締切には9編の応募があり、これと昨年の都市研究センター公開講座の記録で、1号が充分成り立つ見通しがつきました。

5月末の原稿提出も多少の遅れはありましたが順調で、公開講座の記録が、2編の内1編がでてこないため次号以後に送られましたが、応募原稿の総てが揃ってこの号の編集ができあがったのはたいへん幸いでした。執筆にあたった研究員のご協力に感謝いたします。今後も努力して出版の遅れを最小限にしていきたいと考えています。

さて内容ですが、応募原稿であるため、都市交通関係の論文が3編あるのがめだっている以外は、様々な内容になっているのはやむを得ないことでしょう。また、EEC, Seoul, New York と外国の事例に関する論文が3編あること、執筆者に客員研究員、留学生など外国人が3人いること、英語およびフランス語（翻訳をつけました）の論文がそれぞれ1編あることなど、国際色が豊かになったことは一つの特徴です。都市研究センターでは、1991年以後英文年報を毎年発行し、海外の研究所・研究者に送付することにしています（こんな研究所・研究者には送ってほしいという要望を都市研究センター事務局に寄せて下さい）。この年報には、総合都市研究の英文要旨をそのまま掲載しています。都市研究に関して日本から海外に発信される情報の少ないことから、このような情報源にも、多くのレスポンスがあることが期待されます。その意味で総合都市研究の英文要旨も日本語論文の付け足しではなく、極めて重要な情報として考え、内容の改善を図っていきたくと思っています。この点にもご協力下さい。

1991年9月

石田 頼房